

機動戦士ガンダム 戦士たちの鎮魂歌(レクイエム)

ヒロアキ141

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

宇宙世紀00791月3日

地球から最も遠い宇宙都市サイド3はジオン公国を名乗り地球連邦政府に対し独立戦争を仕掛けた

のちの一年戦争である

これは、歴史に名を残すことのなかった男たちの闘いの記録であり記憶である

目次

第一章

開戦の狼煙―ブリテッシュユ作戦―

1

第一章 開戦の狼煙―ブリテツシュ作戦―

宇宙世紀0079、1月3日

俺は生涯この日を絶対忘れないだろう。

否、忘れようがない、あの時……あの一年戦争が始まったあの日の事を……

私、フレベレス・ファインドルは願う、宇宙の民と母なる地球の恒久平和を永遠なれと。

「……尉……大……フレベレス大尉！」

不意に機体の通信機から通信が入り、微睡んでいた意識が覚醒する。

「どうした？ブラス曹長」

通信をしてきたのはブラスフィールド・レイマン曹長。母艦のファイメルの通信員をしている女性兵士である。

「そろそろ作戦開始時刻ですよ」

「ありがとう曹長。フレベレス小隊出るぞ！」

ムサイ級ファイメルから出撃したMS-06CとMS-05Bの混成部隊は、他のモビルスーツ隊と共に、一路攻撃目標のサイド1に向けて進撃を始めた。

駐留していた地球連邦軍艦隊の大半はミノフスキー粒子の電波障害の影響か混乱の中にいたが、少数の艦艇と戦闘機が迎撃せんと出撃してきた。

「来た来た……二番機は直掩の戦闘機を狙え！三番機は俺と共に戦艦を落とす！いいな！」

「三番機了解！」

「り、了解！」

二番機のクラナス・マッケンジー中尉の駆るMS-05Bが編隊を組んでミサイルを放ちながら飛んできた5機のセイバーフィツシュ

この日ジオン軍は宣戦布告のわずか3秒後に衛星軌道上の連邦軍艦隊に奇襲攻撃を行った。同時刻、別働隊がサイド1・サイド2・サイド4に無差別攻撃を敢行。この無差別攻撃により各サイド駐留地球連邦軍艦隊なす術なく壊滅。

後に「3秒の宣戦布告」と呼ばれる一年戦争の始まりの瞬間である。この時点で3つのコロニー住民28億人が犠牲となった。

しかし、この宇宙での無差別殺戮はほんの序章にしかすぎなかった。

「フレベレス小隊全機帰還しました」

「うむ、ブラス曹長初めての实戦だったが、すごくよかつたぞ。これからも期待しているぞ」

「ありがとうございます。艦長」

ムサイ級ファイメルに部隊が着艦したのを確認したブランフィールド・ハイマン中佐は大きく息を吐いた。

「艦長、艦隊司令部より電文が入っています」

「何？読んでくれ」

「はい、『発艦隊司令部サイド1及びサイド4を攻撃中の各艦艇は作戦終了後速やかにサイド2宙域に展開中のコロニー護衛艦隊へ合流せよ』以上です」

「(とうとうブリティッシュ作戦が発動してしまうのか……何人罪無き人々が死んでいくのだろうか……) 全クルーに通達！本艦はサイド2に展開しているコロニー護衛艦隊と合流する！」

と告げた。

ムサイ級ファイメルモビルスーツ格納庫横。パイロット詰所

「……………(戦争とはいえ、人を殺してしまった……本当にこの戦争は我々スペースノイドの為になるのだろうか……)」

「初めての实戦だったが、大丈夫だったか、フェイラン少尉」

「隊長……先程は申し訳ございませんでした」

「少尉の気持ちもわかる。わかるが、割り切ることも大事だ。でない

と……………死ぬぞ、それも自分だけではない、仲間がな」

「隊長…、分かりました」

「何、気にするな」

翌日01/04、「アイランドイフィッシュ」とよばれたサイド^{ハッ}2・
8バンチコロニーが核パルスエンジンで安定軌道を離れ地球連邦軍
本部ジャブローへ向けて、移動を開始した。これがブリティッシュ作
戦である。

翌01/05 コロニーの落下先が連邦軍本部ジャブローと判
断した連邦軍はティアンム提督指揮下の艦隊がルナツォを発進。

2日後の01/10 ティアンム艦隊落下するコロニーに到着、
ジオン軍護衛艦隊と本格的な艦隊戦が発生した。

「スツゲエ、コイツを地球に落すのか」

「(本当にこれで戦争は終わるのだろうか……………)」

「ボケっとしている暇は無いぞクラナス中尉、フェイラン少尉。敵部
隊が接近中だ！フレベレス小隊行くぞ！」

地球に向けて移動しているコロニーを眺め惚けているクラナス中
尉とフェイラン少尉を叱責し、コロニーを破壊せんと攻撃を開始した
連邦軍艦隊に攻撃を始めた。

「沈めえええええッ!!」

核弾頭を装填した280mmバズーカ砲でサラミス級巡洋艦を撃沈
し次の艦艇を沈めんと獲物を探した。

「それにしても数だけは相変わらず多いですね！」

「自分達の本部がなくなるかどうかの瀬戸際でもあるからな……………奴
さんも必死にもなるさ(今は悩んでなんかいられない……………生き残る
ことを考えなくては!)」

パブリク級突撃艇がコロニーに向けて放ったミサイルを105mm
マシンガンで撃ち落としながらクラナス中尉がぼやき、離脱しようと
したパブリク級突撃艇を105mmマシンガンで撃墜したフェイラン
少尉がすかさず返答した。

その時だった。

「コロニーが地球に落ちる……」

「(これで本当に独立が出来るのだろうか)」

「コロニー護衛任務の終了を確認。これより帰投する」

01/10　しかし、迎撃に出たティアンム提督指揮下の連邦軍艦隊の必死の抵抗によりコロニーは大気圏突入後、アラビア上空で四散、崩壊。

その破片はオーストラリア大陸と北米大陸、そして太平洋上に落下。

なかでも、落下点のオーストラリアシドニーは壊滅直径500キロメートルのクレーターとなり、地球の自転も早くなってしまった。

コロニーの到着による一次被害の他、津波などの二次災害が発生、地球規模で気象異状が頻発した。

ジオン軍側も、作業中のモビルスーツが狙い撃ちされ、多くのベテランパイロットが命を落としていった。

フレベレス・ファインドル大尉はサイド1での戦闘とコロニー護衛戦闘で戦艦を2隻と巡洋艦を9隻、戦闘機を20機撃墜した功績で二階級特進、中佐に昇進した。

それと同時に機体をパーソナルカラーに塗装することが許可され、これ以降フレベレス・ファインドル中佐は「漆黒の死神」の異名をえることとなるが、その異名の真価はサイド5、ルウムでの戦いで発揮される事となる